

導いただいた。これらの方々に深く感謝し、心より御礼申し上げます。

#### 引用文献

- 阿子島香. 1989. 石器の使用痕. 考古学ライブラリー 56. 8 pp. ニューサイエンス社, 東京.
- 網谷克彦. 1996. 鳥浜貝塚出土の木製品の形態分類. 鳥浜貝塚研究 1 (網谷克彦編), 1-22. 福井県立若狭歴史民俗資料館, 小浜.
- 岩田らさ. 2000. 使用による縄文時代磨製石斧の形態変化に関する一考察. 「人類誌集報 2000」(後藤章太郎他編), 141-170. 東京都立大学人類誌調査グループ, 東京.
- 岩田らさ. 2001. 2000年度縄文時代磨製石斧の実験による使用痕の観察. 「人類誌集報 2001」(加藤亜希子他編), 68-98. 東京都立大学人類誌調査グループ, 東京.
- 工藤雄一郎. 2001. 石斧の柄材について(予察) —ユズリハの生育環境と石斧柄材—. 「人類誌集報 2001」(加藤亜希子他編), 99-113. 東京都立大学人類誌調査グループ, 東京.
- 工藤雄一郎. 2004. 縄文時代の木材利用に関する実験考古学的研究—東北大学川渡農場伐採実験—. 植生史研究 12: 15-28.
- 三山らさ・磯部保衛・山田昌久. 2002. 磨製石斧. 季刊考古学 81: 23-27.
- 佐原 眞. 1994. 斧の文化史. 173 pp. 東京大学出版会, 東京.
- 山田昌久. 1979. 木工技法の分類. 「鳥浜貝塚—縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査 1—」(鳥浜貝塚研究グループ編), 101-103. 福井県教育委員会, 福井.
- (2004年3月9日受理)

書評: 山田昌久, 編. 2003. 考古資料大観, 8. 弥生・古墳時代, 木・繊維製品. 369 pp. ISBN 4-09-699758-7. 小学館, 東京. 価格 42,000 円 (税込).

大変な本がでた。何が大変かと言えば、本がでかくて重いこと、値段が高いこともあるが、何よりも図版が美しく遺物の形状が実に良く分かり、資料価値が極めて高いことと、本としての有用性である。巻頭の 32 頁にわたるカラー口絵が圧巻で、これで弥生・古代の木製品の概観が分かる。カラー口絵に続いて総説「木・繊維製品の範囲と特徴」、第 1 章「九州地方の木・繊維製品」、第 2 章「山陰・北陸地方の木・繊維製品」、第 3 章「山陽・四国・近畿地方の木・繊維製品」、第 4 章「東海・中部地方の木・繊維製品」、第 5 章「関東・東北地方の木・繊維製品」と続き、最期に第 6 章「木・繊維製品の編年と用材」と言う章がある。

総説では木・繊維製品の範囲、研究小史、問題点、などが自由奔放に語られている。地方別の各章は、先ず出土遺物の写真図版が 20 ~ 50 頁ほどにわたって掲載され、その後、木・繊維製品の特徴や系譜、加工技術などに関するコメントが数ページある。最期に編者が書いているように、出土した遺物全部の図版を掲載できるものではなく悔いが残るのだろうが、しかし、これだけの膨大な数の出土遺物の写真を一つの本にまとめて掲載したことの資料的価値は極めて大きいと言える。

最期の章は「木・繊維製品の編年表」という図版と「木・繊維製品の時期差と地域差」、「用材利用法と樹種同定資料」からなる。編年表は縄文晩期、凸帯文期以前から飛鳥、古代までを幾つかの時期にわけたものを縦軸、地方を横軸にして木・繊維製品の実測図を製品群別にわけて配置したもので、時代の流れと地方による異同が一目瞭然に示されている。続く「木・繊維製品の時期差と地域差」はこの編年表を読み解いたもので編者の所見が随所に入り、全国を渡り歩きながら実物に常に当たってきた成果が見て取れる。

「用材利用法と樹種同定資料」では樹種同定資料の方に目が引き寄せられる。出土材に多い樹種 40 種あまりについて、木口、柾目、板目の 3 断面の顕微鏡写真と分布(分布図付き)、樹形、材質、「近年の用途」と出土遺物の器種とその遺物の分布地域の簡単な記載がある。「近年の用途」と言うのがみそで、今では使われなくなってしまったが、つい最近まで使われていた用途という意味のようで、民俗事例などを反映している。そして何よりもおもしろい試みは、「観察のポイント」と称して樹種同定する上でのポイントを挙げて、顕微鏡写真にマークを書き込んでおり、非常に分かりやすい。我々が書く報告では顕微鏡写真と記載文があっても記載文が顕微鏡写真のどこを指しているのか皆目分からず、理解しにくいものとなっているのだが、このような解説の仕方は試みられていいものだろう。

紹介者はこの「考古資料大観」と言うシリーズがどのような本作りのルールになっているのか知らないのだが、資料としての価値に重点を置いたものであることは自明でその役割は十二分に果たしている著書だと思う。それにしても編者に「あとがき」くらいは書かせてあげてもよかったですのではないかなと思う。きっと、この本の企画が走り出してから、この出版を迎えるまでには、編者にはそれこそとても書き表せないような苦労やいろいろなことが山ほどあったろうと思う。そして、それは「図版データ入力・整理・版下作成」としてさらりと名が上がっている人たちにも同様であったのではないだろうか。言い出したら言いたいことがあまりにも多いので一切書くのをやめてしまったのだろうか、本人に是非お伺いしたいものである。

この本はセットで販売されている。この巻のみの購入を希望される方は山田昌久氏に相談されたい。(鈴木三男)